

原発 ゼロ にむかって

2012年4月4日 No. 16

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

「さよなら原発4・1大集会 in いばらき」 3100人が集う！

4月1日（日）、茨城県東海村にある日本原子力発電東海第2原発の廃炉を求める「さよなら原発4・1大集会 in いばらき」が、原発から約3キロ離れたひたちなか市、那珂市、東海村にまたがる笠松運動公園で開かれました。東海第2原発は、去年の東日本大震災で福島第1原



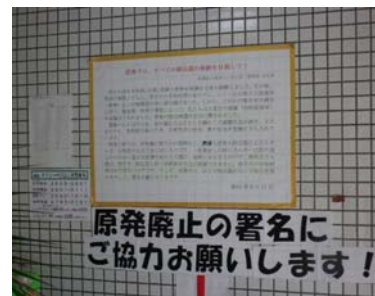
発と同様の大事故の一步手前の状態に陥り、廃炉を求める運動の広がりの中で、集会には茨城の脱原発集会では過去最多の3100人が参加しました。東海村の村上達也村長からは、政府の原発再稼働の動きを「倫理観を欠いた無責任な指導者たち」だと厳しく批判するメッセージが届けられました。「子どもたちを放射能から守ろう」の交流テントでは「健康相談」「食品の放射能汚染と学校給食」をテーマに山川城南病院長や茨城大学の原口・中川・蓮井准教授、茨城大学地域総合研究所の二平客員研究員が専門家としてのアドバイスを行い、テントに入りきれないほど人が集まり、熱心に聞き入っていました。（東京民医連事務局次長 斉藤裕幸）

セツルメント診療所（ひこばえ会）

1人1人の職員の決意、思いを込めて

「原発ゼロ宣言」を診療所(玄関)に掲示！

この「宣言」は、昨年9月17日に起草。現在、セツルメント診療所の玄関前に掲示されています。診療所の尾崎事務長は「この宣言には職員みんなの思いが込められている」と語ります。被災地への思いはせる職員、現地支援を通じて連帯の決意を固めた職員、「計画停電」（足立区）の経験で福島依存への反省をした職員などの様々な気持ち、思いが表現されたものです。宣言は、「原発ゼロ」と合わせて「核兵器の根絶」も盛り込まれています。友の会や患者さん、地域住民の中でも評判になっています。この「宣言」を契機に「原発ゼロ」署名も多く寄せられています。



原発ゼロ、すべての核兵器の根絶を目指して！

医療法人財団ひこばえ会 理事長 糸氏亨

私たちは66年前、広島、長崎と悲惨な原爆を2度も経験しました。その後、経済の発展とともに、原子力の平和利用の名の下に、いくつもの原子力発電所（原発）をこの地震国日本に造り続けました。しかし、このたび東日本大震災に伴う、福島第一原発の事故によって、私たちは3度目の被曝（放射能被害）を余儀なくされました。原発の安全神話は完全に覆されました。

福島の人々は今なお、住み慣れたふるさとを離れての避難生活が続き、また私たちも、放射能汚染のため、日常生活の安全、食の安全が危機にさらされています。

戦争に使うか、平和裏に使うかに関係なく、原爆も原発も核分裂によるエネルギーを利用する点で全く同じものです。一度暴走した核エネルギーは取り返しのつかない甚大な被害を私たち人類に、地球に与えるものです。現時点で人類は、原子力、核反応に伴う放射能を完全に制御できません。原子力の平和利用はあり得ないはずです。今こそ、原発ゼロ、および核兵器のない平和な世界をめざして、歴史を動かすときです。

2011年9月17日